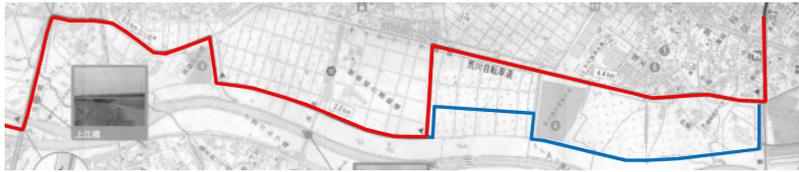


○レクリエーションルート環境整備

荒川自転車道については、北浦和～森林公園(約46km)が指定されており、さいたま市内の荒川沿い約10kmが走行ルートとなっており、多くのサイクリストが利用していることから、環境整備を検討中です。



本線
迂回路

サイクリングロード利用者数 (H28.6.19調査/AM7:00~12:00)
(北上) 648名 (南下) 409名 = 1,057名

(課題)

- ・自転車利用者と、歩行者及び周辺施設利用者との事故の危険性
- ・走行位置のわかりづらさ
- ・休憩スポットのわかりづらさ

(検討中の対策)

- ・走行注意喚起の路面標示等の設置
- ・案内サイン、距離表示の設置
- ・休憩スポットの案内

検討中の表示(案)



○幅広い世代への交通安全教室の実施、自転車安全利用に関する広報・啓発

自転車の安全利用の推進に向けて、小学生に対しての「子ども自転車運転免許制度」や、中高生に対しての「スケアード・ストレイト教育技法」などを実施しているところですが、大人世代への安全教室が少ないことから、市が実施している「子育てパパママ自転車アシストプロジェクト」においては、3人乗り電動アシスト自転車の貸出しと併せ、「自転車安全講習会」を開催し、安全利用の関する意識啓発を促しています。本年度については、利用者を対象とした、安全利用のワークショップの開催を行うなどし、ルール遵守については、改善が見られています。

また、昨年10月には、ファミリーで安全利用の意識啓発を促すための、「自転車マナーアップフェスタ」を開催するなど、幅広い世代への意識啓発を進めています。

【子育てパパママ自転車アシストプロジェクト】



【講習会の様子】

【WSの様子】

【マナーアップフェスタ】



コクーンで開催し、約2,300人の来場

自転車安全利用5ルール遵守の改善状況	講習前	講習後(半年後)	改善率
①自転車は車道が原則、歩道は例外	57.0%	75.0%	18.0%
②車道は左側を通行	78.0%	87.0%	9.0%
③歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行	55.0%	84.0%	29.0%
④安全ルールを守る	87.0%	92.0%	5.0%
⑤子どもはヘルメットを着用	58.0%	88.0%	30.0%

*パパママ自転車アシストプロジェクトアンケート調査(対象者200名)

○サイクルサポート施設の認定・設置

広域型レクリエーションルート(荒川サイクリングロード・見沼ヘルシーロード)や、市内回遊型レクリエーションルートの沿線を中心に、トイレや休憩所などの機能を有する、サイクルサポート施設の認定・設置を検討中です。自転車専用ラック、空気入れ、工具等、サイクリストのニーズに対応する、設備の導入を、民間店舗等と連携しながら、進めていきます。

【社会実験の様子】



公園内へのラック設置



Cafeへの、のぼり旗による誘導、ラックの配置

【他市のPR事例】



○自転車ネットワーク路線の整備、ルール・マナーの意識啓発のためのサイン設置

本市では、平成26年4月に「さいたま市自転車ネットワーク整備計画」を策定し、10年間で200kmの自転車通行環境帯の整備を計画しています。平成28年12月末時点においては、54kmの整備が完了しており、整備区間においては、自転車の走行位置に改善が見られています。

今後の事故減少に向けては、自転車利用者への更なる意識の改善が必要なことから、サインの設置と併せて、安全利用の促進を図っていきます。

【自転車通行環境の整備】



【意識啓発のサイン設置】



自転車通行空間整備による状況の変化(国道17号)

整備箇所	車道(順走)			整備箇所	車道(順走)			備考
	整備前	整備後	改善率		整備前	整備後	改善率	
武蔵浦和	15.7%	33.5%	17.8%	大宮	22.3%	40.9%	18.6%	平日昼間12時間交通量
	28.4%	50.2%	21.8%		33.9%	53.0%	19.1%	平日朝ピーク時交通量

* (公社) 日本道路協会発行「道路」平成28年12月号より